小学校

みんなで挑戦！

〇目標となる資質

自治集団づくりに資する力、仲間づくり・絆づくりに資する力、コミュニケーション能力

〇指導のねらい

グループで試行錯誤しながら合意形成を図ろうとする体験をとおして、子どもたちが自らの力で思考・判断・行動できる能力を育もうとする態度を養う

〇準備するもの

用紙、ものさし（または長い棒）、ワークシート×児童数

〇教育課程、実施時期

特別活動、学期はじめや行事の前等

〇留意点など

問題解決型のグループワークを実施するため、子どもたちが試行錯誤しながら取り組めるよう、教師はファシリテーター役として活動の様子を観察した上で、適切にフィードバックを行うこと

展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1　本時の学習を知り、見通しを持つ 世界一高いタワーをつくろう	・「紙を使って、世界一高いタワーを作る」等、児童が主体的に取り組めるよう、活動への興味付けを行う
展開 35分	2　ルールを確認して、個人で挑戦する	・タワーを作る際のルールを確認し、個人で取り組ませる
	3　グループに個人で作成したタワーを見せ、工夫したところと難しかったことを共有する	・グループで個人のタワーを見せ合い、工夫した点や難しかった点を発表させる ・仲間のタワーのすごいところについて感想を伝えさせる
	4　グループで協力してもっと高いタワーを作るための作戦会議をする	・「世界一高いタワーはまだ作られていない」等、場面を設定し、グループでさらに高いタワーを組み立てることを伝える ・作戦会議のルールを伝え、組み立てるタワーのイメージをグループ内で共有させる
	5　グループでタワーを組み立てる	・教師はファシリテーター役として、子どもたちが十分に活動できているかという視点で観察を行う
	6　グループで組み立てたタワーに名前を付け、工夫したところと難しかったところを話し合う	・グループで組み立てたタワーの名前を考えさせ、工夫した点や難しかった点を話し合わせる ・教師は各グループのタワーの高さを計測しながら、話し合いの様子を観察する
	7　全体に発表する	・話し合った内容とタワーの名前を発表させる ・教師は観察したことや発表内容をもとに活動の様子についてコメントする
まとめ 5分	8　学習を振り返り、感想をワークシートに記入する	・自分一人でタワーを作ったときと友だちと協力してタワーを作ったときとを比べながら、活動の振り返りを行い、友だちと話し合いながら協力することの良さについて実感させる

参考

○「問題解決型グループワーク」について

問題解決型のグループワークでは、活動そのものではなく、課題発見→合意形成・役割分担→問題解決→振り返り→新たな課題への気付きというプロセスを大切にしたい。そのため、課題となるグループワークは発達段階に応じて、様々な課題が考えられる。例えば、図工等で出た画用紙の端材を用いて、テーマに沿ったもの（「四本足の動物」「見たこともない生き物」等）を作らせる、あるいは○m飛ぶ紙飛行機を○機作らせるなど、発達段階や学級の様子、子どもたちの興味・関心に合わせて工夫されたい。いずれの活動についても、子どもたちが主体となって活動を進められるよう、教師がやり方を教えるのではなく、ファシリテーターとして子どもたちの声に耳を傾け、つぶやきを拾いながら活動の雰囲気づくりに徹し、先述したプロセスを主導しながら行うことが大切である。

○「タワーを作る際のルール」について

タワーを作る際のルールは児童の発達段階によって適宜変更する。基本形は、①ノリやテープを使わない、②紙を切ったりちぎったりしない等、必要最低限とするが、子どもたちに試行錯誤させるという視点から、あらかじめ使用する紙の枚数を制限しても良い。また、環境設定として、安全配慮の観点から「椅子の上に立たない」「他の人のタワーに触れない」等、学級の状態によってあらかじめ安全面について確認をし、子どもたちに知らせておく。

○「個人で挑戦する」について

その後の作戦会議で全員が意見を出し合えるよう、個人で試行錯誤する時間を取る。その後、グループでの話し合いをすることから、あらかじめグループの形を取らせておくこと。その際、教師は確認したルールが守られているか等、次の活動に生かすという視点で確認・支援を行う。そのため、積極的に声かけを行うが、個人で工夫したところや難しかったところについて考えられるよう、積み上げ方に対して評価をしたりアドバイスをしたりしないよう留意する。

○「工夫したところ難しかったこと」について

活動の中で実感した試行錯誤した部分について、「相手に伝えたい」ことについて焦点化する。「工夫したところ」は自分が試行錯誤して上手くいった部分、「難しかったこと」は試行錯誤したが上手くいかなかった部分について話すことになる。その際、仲間のタワーの工夫について真似てみたいと思ったところを発言したり、ワークシートに書かせたりして共有させる。

○「作戦会議のルール」について

「より高いタワーを作りたい」という意欲付けを行い、そのための「作戦会議」という位置付けを大切にしたい。作戦会議では、①全員が同じくらい発言をする、②相手の意見を批判しない等、合意形成を図りながら問題解決に当たる経験を積ませることで、自治集団づくりに資する力の育成を促したい。また、タワーを組み立てる上での役割にも注目させ、「指示をする係」「紙を折る係」「積み上げる係」「時間を測る係」など必要な役割や、役割を決めて積み上げる、全員が順番で積み上げるなどの作戦を考えさせたり、あらかじめ例として提示したりすることで、作戦会議をより主体的に取り組ませることができるよう工夫する。その際、ワークシートに話し合いの中で「なるほど」と思ったことを書き留めたり、タワーの完成図を書いたりすることで、タワーの組み立て方や完成イメージをグループ内で共有させることが重要である。

○「グループでタワーを組み立てる」について

話し合いで共有されたタワーの完成イメージを元にグループでタワーを作らせる。その際、教師はファシリテーター役として、時間管理とルールや安全への配慮を行う。また、グループで工夫が見られる点（「○○さんがグループのみんなに声をかけている」「役割分担をしてタワーを作っている」「順番を決めて紙を積み上げている」「柱を六角形にしている」「仕切紙を入れて積み上げている」等）について、積極的に声かけを行い、その後のグループでの話し合いで振り返るための視点について適宜グループに知らせていく。ファシリテーター役として振り返るための視点の例としては、「全員が参加できているか」「学級やグループで決めたルールを守っているか」「意見を出し合いながら楽しく活動しているか」「一人一人の役割の必要性を共有できているか」「みんなが楽しめるよう自分の役割を果たそうとしているか」「励まし合ったり注意し合えたりする人間関係ができているか」「安心して活動できたり助け合ったりする活動ができているか」など、学級の様子や発達段階に応じて望ましい活動の姿をあらかじめ教師が設定しておくようにする。

○「グループでタワーに名前を付け、話し合う」について

グループで活動を振り返るとともに、完成したタワーに名前を付けることで達成感を味わわせたい。完成したタワーは教師が計測を行い、話し合いの様子も合わせて観察する。計測については、発達段階に応じて、長い棒に印を付けて高さを確認したり、計測した長さを黒板に書いたりして、子どもたちに知らせる。知らせるタイミングについては、その場で伝える、その後の全体発表で伝える等、工夫されたい。

○「全体に発表する」について

グループで話し合った「工夫したところ」「難しかったところ」「タワーの名前」とその理由について、発表させる。その際、発達段階に応じて、教師が質問する形で発表させる、話型を準備して発表させる等、スムーズに全体に共有できるよう配慮する。教師は子どもの発言を認めながら、グループで工夫した点について補強する。特に自治集団づくりの視点として合意形成のプロセスに有効であった役割や発言については全体に知らせることが重要である。

○「学習を振り返る」について

問題解決型のグループワークを通じて、考えたことや思ったこと、実感したことについて振り返らせたい。その際、「一緒に一つのことに取り組んだけど、一緒にするときに大切なことって何だろう」と子どもたちに投げかけ、「楽しかった」「次もやってみたい」だけでなく、今後の集団活動に役立てられるよう、ワークシートに記述させる。

資料

○「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動　小学校編」（文部科学省）
○「コミュニケーションと人間関係づくりのためのグループ体験学習ワーク」（鯖戸善弘）
○「クラス全員がひとつになる学級ゲーム＆アクティビティ 100」（甲斐﨑博史）

みんなでちょうせん！

ねん　くみ　ばん　名まえ

1　やってみて「くふうしたところ」と「むずかしかったところ」を書きましょう。

「くふうしたところ」

「むずかしかったところ」

2　友だちのタワーの「すごいな」とおもったところを書きましょう。

3　「作せん会ぎ」できめたことをことばや絵で書きましょう。

4 グループで「くふうしたところ」と「むずかしかったところ」を書きましょう。

「くふうしたところ」

「むずかしかったところ」

5 グループでタワーに名まえをつけて、りゆうを書きましょう。

「名まえ」

「りゆう」

6 今日の活どうでかんじたことや考えたことを書きましょう。